

# 平成30(2018)年度 「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」 (住まい活動助成) 活動中間報告

## 団体名

NPO 法人ライフサポートセンターHAPPY

## 活動のテーマ

エンディングノートを活かして“円滑な相続登記”と“地縁力による空き家の発生防止”を目指した活動

## 9月までに達成できた事項(箇条書き)

### 達成事項1 「HAPPY セミナー」

- ・松本昭氏の視察を機に、行政の各課に対する当団の活動紹介は進んだ。
- ・生涯学習課のハロー元気講座を含め、20回の相続セミナーを実施。

### 達成事項2 「空き家対策協力隊」発生空き家への対応

- ・2対象地区に、「空き家見回り隊」のメンバー募集に向けて、状況理解を求めるセミナーを実施
- ・対象地区で作られているそれぞれの活動団体で「円滑な相続に向けてのセミナー」を実施。
- ・「空き家見回り隊」による地区内空き家情報収集、及びそれをもとにした空き家マップを作成途中。
- ・活動の広報について、宮崎日日新聞社へ情報提供。
- ・一自治区では、高齢者世帯の住人を呼んで行う「おひとり様アフタヌーンティー会」を準備中  
(「おひとり様～～という呼び方は、あまり好きじゃない・・・」という言葉を受け、今後変更予定)
- ・対象地区外で、空き家に関する相談を受け、対策を検討中

### 達成事項3 「その他」相談窓口の開説

- ・国交省：空き家対策担い手強化・連携事業助成を受け開設完了。今後、HAPPY セミナーとの相乗効果を図る。

## 今後の活動予定と平成31年3月末時点の達成予定項目

### 事業内容1 「HAPPY セミナー」

自治公民館長さんを巻き込み、月に2回のセミナーを実施していく。

エンディングノートを配布するだけでなく、本気で書く気持ちにさせ、個別相談ののち記入する流れを作る。

### 事業内容2 「空き家対策協力隊」発生空き家への対応

○空き家対策協力隊が自律的に意識を持って活動を続ける。

○対象地区で、高齢者の交流の場「(仮称)おひとりさまアフタヌーンティークラブ」が2・3か月に一度開催され、声かけの効果を発揮する。

※将来的に、開催に必要な予算についての的目途がつき、必要に応じて予算確保の道を探る。

NPO法人ライフサポートセンターHAPPY

～宮崎県都城市～

「エンディングノートを活かして“円滑な相続登記”と“地縁力による空き家の発生防止”をめざした活動」

H30, 9月 中間報告

<助成対象活動に至った理由・背景>

本団は「高齢者の安心安全な生活」の支援をミッションとし、相続にまつわる様々な問題を回避するため、エンディングノートの活用を推進してきました。

そんな中、市内に点在する空き家や荒れた家屋の多くが、相続に起因する問題を抱えていることに気づき、昨年度は「廃墟対策と相続対策の推進による都城活性化プロジェクト」として財団のスタートアップ助成を受け活動してきました。

その中で、「空き家は発生前の対策が非常に重要であり、自身の『終活』問題と一緒に考え実践しないと解決しない」「普段から一番身近なコミュニティ：自治公民館区が、元気で活発に機能することで、まずは放置空き家が減少し、地区の価値が担保されるのではないかと考えるようになりました。

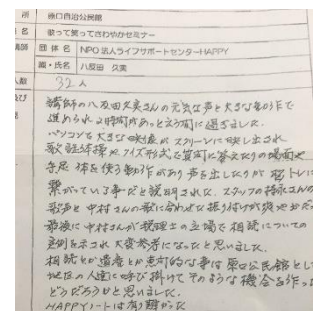
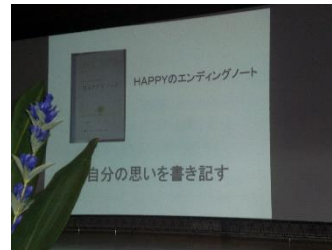
若者の流出による人口減少が深刻な本市において、特に周辺集落では、空き家や朽ちかけた家屋の間にポツンぽつんと高齢世帯が住み続けるという風景が想像され、今なすべきことを少しでも進めるため、この活動を続けています。

<9月までの活動の進捗状況>

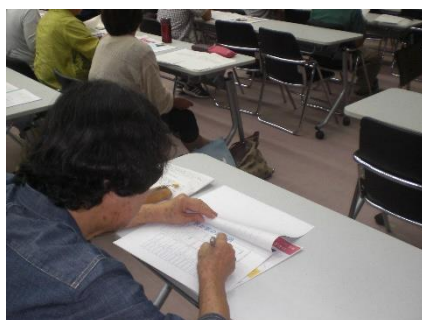
事業1 「HAPPYセミナー」

対象（原口）地区では地区のすべての団体が相続セミナーを受け、エンディングノートのつけ方まで伝えられました。中には、4回すべて受講された方もおられ、地域全体で認識が高まりつつあります。

市の生涯学習課で行っている出前講座では、葬祭場の要請でセミナーを行ったとき、参加者の熱心さに驚かされました。自分やご家族の生死に直面され、心して受講されている方たちばかりだったのででしょうか、今までで一番質問も多く、そのあとの相談も今後を見据えたものでした。セミナーを受ける側の意識について深く考えさせられました。



39人  
八反田講師の巧みな話術により、「認知症予防のためのゲームや歌」を披露。当初は遠慮がちな学園生もだんだんと引き込まれ、「歌って 笑って さわやかセミナー」の講座名のとおり、声を出したり、体を動かしたりと楽しい時間を過ごすことができた。  
後半は廃屋（空き家）などが増加して、家族の遺産相続のトラブルが多くなってきている現状から、中村講師による「遺産相続のあり方」について学ぶことができ、新しい知識の習得ができ、大変よい刺激に繋がったようである。

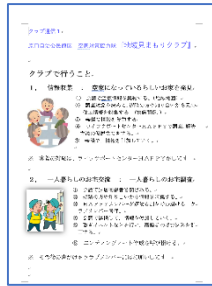


## 事業2「発生空き家とその予備軍捜査活動及び対策チーム」

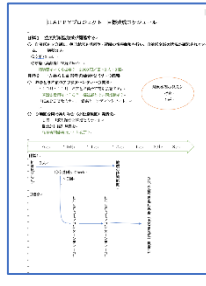
対象3地区のうち2地区での活動が形作られました。



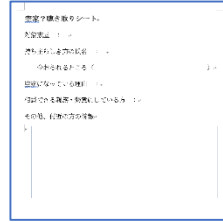
協力員募集



協力隊活動内容説明



年計画



聞き取りシート



今後の活動

### 1、原口自地区



地域での活動をお手伝いすることから始まったセミナーは、自治区の各グループでの開催から、包括センターの行事への参加に広がりました。11月以降、高齢者の単独世帯を集め、アフタヌーンティー会の開催などを定着させて、本活動の目的「エンディングノートの活用の呼びかけ」を推進していきたいと考えています。

先日は、空き家の発生メカニズムの研究に訪れた大学生に、地域の様子をお伝えし、実地捜査に同行する活動があり、さらに、意識の高まりを期待しました。

### 2、小松原自地区



2、3人で行っていた自治公民館活動に参加し、自治会に加入することから活動を始めました。

館長さんに活動の説明をして、問題意識を持った方たちとの話し合いが始まりました。空き家をマップに書き入れたり近辺の情報を伝えあったりする場になっています。

原口自地区と同様に、福岡の大学から来られた学生に、地域の情報を伝えたりするお手伝いにも参加してくれました。やはり、地域を思うそれぞれの気持ちが伝わってくる内容だと感じました。

以上、まだまだ中途の活動になります。

また、相談活動では、対象地区以外の相談者から空き家になる前にどのような対策があるかの質問も受けており、これから対応していく予定です。

